

(メッセ海外通信 2010年10→12月号掲載記事)

～下関市と青島市の友好交流の歴史を振り返って～

下関市総合政策部国際課
(青島市派遣職員)
澤淵 史恵

下関市と青島市の友好都市締結31年目となる本年10月を前に、この長きに亘る両市友好交流の歴史に2つの賞が贈られました。

まず一つ目の賞として、下関市は青島市との30年に亘る友好交流の積み重ねを認められ、中国人民対外友好協会（日本の(財)自治体国際化協会に相当）から「対中友好都市交流合作賞」が贈られました。両市は日中関係が悪化している時期でも友好交流を絶やさず続けており、これが両市の強い信頼関係を構築しています。もちろん、今回の同賞受賞の陰には青島市からの推薦がありました。

中国では、1973年に神戸市と天津市が友好都市締結を行ったことに始まり、現在では126カ国1721都市との友好都市締結を行っています。中でも、下関市と青島市は1979年に友好都市締結を行い、こうした中国の友好都市政策中、早期に友好都市締結を行った都市として位置づけられています。

さて、下関市と青島市の友好都市締結の歴史は1974年に遡ります。当時の井川克己下関市長を団長とする下関市代表団が、廖承志(リョウ ショウジ)中国中日友好協会会長と北京で会見し、友好都市締結の相談を行ったことから始まります。この時、下関市代表団の一員として参加し、その後の友好都市締結後も両市友好交流促進のために率先して活動を展開されて来られた方がいらっしゃいます。それが下関市日中友好協会の金田満男会長であり、今回ご紹介させていただく二つ目の賞を受賞された方です。

同氏は、この度、青島市人民対外友好協会より、「青島市人民対外友好協会榮譽理事」の称号を授与されました。これは、同氏が、両市友好都市締結の歴史を知る生き証人として、長きに亘る両市友好交流を支えて来られたことの評価のみならず、今後も引き続き両市友好交流に貢献いただきたいとして贈られたものです。

就任式では、同氏が、1974年の北京への下関市代表団の訪問の様子から始まり、青島市との友好都市締結、各周年事業のくだりなどを大変懐かしく、そして感慨深げにとつとつと話される姿に、参加者が皆聞き入りました。また、就任式後も、同氏は、青島大学日本語学部において記念講演会を開催されるなど、精力的に両市友好交流のための活動を行われました。同氏は、本年85歳。昨年10月の下関市・青島市30周年記念式典の際には、参列された秦敏青島市副市長から、「100歳になられた時には、是非私が青島市へご招待しましょう」との言葉をいただいたのだそうです。是非とも引き続き両市友好交流の推進に貢献いただき、100歳の記念渡航が実現することを心から願うばかりです。

このところ、緊迫する日中関係の様子が度々報道で取り上げられていますが、下関市と青島市の関係は、金田氏を始めとする諸先輩方が築かれた深い絆で結ばれており、今後もより親密かつ活発なものとなっていくことでしょう。最後になりましたが、一日も早い日中関係の回復を願って、そして日中の新しい時代が来ることを願ってやみません。



対中友好都市交流合作賞受賞式の様子



青島市人民对外友好協会名誉理事就任式の様子